

## 巻頭言

仙台市立病院院長 奥田光崇

仙台市立病院医学雑誌第38巻が刊行されることとなりました。本号には原著2編、症例報告6編、コメディカル・レポート4編の他、2017年に発行された著書、学術論文、学会報告のリスト、院内剖検記録、救命救急センター症例検討会一覧等が掲載されています。編集にあたっては、平成28年3月より投稿規定を改めて整備し、査読者2名による査読と委員会での審査を採用の要件としています。八木編集委員長をはじめ、編集委員の皆様のご努力に敬意を表します。

論文のエビデンス・レベルとしてはシステマティック・レビューやランダム化比較試験が高く評価されます。これらは全体の傾向を捉えてエビデンスを構築するための研究であり診療上必須のものであります。一方、実際の医療現場では、教科書やガイドラインには載らないような稀有な症例や、様々な合併症を有し一般的なエビデンスを当てはめることのできない症例を数多く経験します。また、病院では日々新たな困難や課題が生じますが、現場スタッフは様々な工夫をこらしながら対応しています。

これらの症例や取り組みの結果を論文にまとめ報告することは、著者自ら調査・考察するよい機会となるだけでなく、同じような症例や課題に直面する多くの医療従事者にとって大規模な臨床試験だけでは掘り取れない貴重な情報となります。ここに仙台市立病院医学雑誌のような身近な医学雑誌の存在意義があると信じます。

仙台市立病院は仙台医療圏における中核病院として高度医療・救急医療という大きな役割を担っております。平成29年の当院の救急車の受け入れは、前年比469人増の6,260人となり3年ぶりに県内1位を奪還しました。これはひとえに多くのスタッフの頑張りの成果にほかなりません。また11月には日本医療評価機構による病院機能評価を受審し、平成30年4月に認定を受けました。この受審経過を通じて院内の様々な課題に気付き改善することができただけでなく、改めて患者視点に立った総合的なケアの重要性を共通認識とすることができました。

こうした多忙な日常業務の合間の時間をやりくりして執筆された各著者のご努力に敬意を表します。医療従事者が自らの技量を高めていくための一過程として学術的な活動は大いに意義のあることだと考えます。今後も職員がそれぞれの貴重な経験や調査、考察を発表する活動を通じて、仙台市立病院の医療レベルをさらに向上させていくことを願っております。